



サンユー農産の今をお届けする

2018年 6月号

ありがとう便り

農園の人々や作業風景、四季折々の景色や出来事など
北海道は仁木町で繰り広げられるサンユー農産の裏側をご紹介します。



4月

あとは、追肥をしながら10月の収穫を待ちます。
←人の顔くらいまで大きくなるヤーコンの葉。ヤーコン茶用にきれいに洗って乾燥します。
←まだ若いやーコンの葉は、天ぷらにしてもおいしい。
←小さないまわりのようなヤーコンの花は、収穫の終りに、ひときわ咲きます。

10% 下旬として収穫

ヤーコンの収穫は、ユンボをつかいます。まずは、ヤーコンの茎を刈りとたあと、ユンボで大きく塊りかえします。その後、手作業で、塊茎と塊根(ヤーコン)をていねいに分離します。

ヤーコン芽と塊茎の土をおいて、天日で乾かし、ヤーコン芽は、20日ほど熟成させながら、ジュースに加工します。ヤーコン塊茎は、翌年の種芋にあります。凍害と乾燥に注意しながら大切に保管します。

コロホックルの里のヤーコン栽培は苗づくりからはじまります! 雪が解ける4月に、昨年収穫したヤーコンの塊茎(カリカリ)をポットに植えます。

ボコボコした塊茎から芽が出るるので、芽ごとにセカリ分けて植えます。ヤーコンは霜に弱いので、暖くなるまでは、ハウスの中での栽培します。苗を育てながら畑を耕して、苗を植える準備をします。

コロホックルの里は有機栽培圃場なので、雑草対策にマルチをひきます。マルチをひいたら、幅80cmごとの穴を開けます。

5月

苗が育ち、外気温が10℃を切らなくなったら頂に定植します。ヤーコンの葉は1枚が大きく、苗が育つと、高さも1m50cm~2mくらいになるのですが、株と株の間は、大きくあけるのがう!

矢じり方の大好きな葉の小さな花↓ ポリフェールが豊富なヤーコン茶の原料になる!!

塊茎(カリカリ)ニカガタの種芋になります。塊根(カリム)ヤーコンキニカバ食用になる。フラクトオリゴ糖が豊富! ヤーコンジュースの原料になります!

しかししながら3年前位から店先に並ぶ海産物の傾向が変わってきました。昔はイカやホッケなどが並んでいたのですが、今はブリが良くとれるよう、非常に安く店先に並んでいます。これは、海の温度が上がってきることにより、南でとれていた魚が北まで上がってきたことが原因のようです。私が子供の頃は、新鮮なブリを食べることはほぼ不可能でしたが、2016年のブリの漁獲量は全体の11%で3位となっています。一方イカやホッケ、鮭は軒並み不漁となりました。これも海流温度が影響しているようです。

転じて、農作物を見ても温度による影響が出てきます。例えば、昔は「柿」は北海道では栽培ができないといわれていましたが、今は仁木町で栽培している農家があります。サクランボは、昔は7月1日頃から8月初旬ごろまでの収穫でした。現在は6月20日頃から7月末頃に旬が移っています。

生産者の寄合に出ると、生産者は常に新しい農作物の生産を模索しています。私たちはシソがメインですが、シソは温暖気候のほうが良いので、この温暖化の影響はあまり受けない作物と言えますが、その分虫の発生などを心配しなくていい点もあります。農業は生き物ですので、常に嗅覚を敏感にしなければならないです。

和



仁木町にある私たちの本社(事務所、工場、倉庫)がある場所には、冷水川という名の河川が流れています。この川は水がきれいなため、農業用水に使用されているのですが、5月頃から10月頃まで、川釣りをする人がちらほらと訪れます。特に、私たちの会社の敷地内には釣りスポットがあるようで、ヤマメやニジマスなどが釣れることがあるようです。ほかにも、イカやホッケ、マグロなどが有名です。仁木町には海がありませんが、隣の余市町は漁港の町なので、新鮮な魚を手に入れることができます。特にエビ漁が盛んで、名古屋の有名なエビせんべいの原料を卸しているようです。ほかにも、イカやホッケ、マグロなどが有名です。

農園だよ!

